

2年生の地理 世界と比べた日本の地域的特色 重要語句

教科書のページ（P132～166）を確認しながら考えましょう。

P132、133

- 地震や火山活動が活発なアルプス山脈からヒマラヤ山脈、インドネシアに続く造山帯。
- ロッキー山脈、アンデス山脈、ニュージーランド、日本列島など太平洋を取り囲むように連なる造山帯。

P134、135

- 本州の中央部にそびえる3000m級の山々。
- 問題3の東側にある断層。この断層を境にして山地や山脈の並ぶ方向が異なる。
- 小さな岬と湾がくり返す入り組んだ海岸。
- 九十九里浜に代表される海岸。
- 堤防を築き、内部の水を排水して陸地をつくること。
- 大陸の周辺にみられる海岸からゆるやかに傾斜しながら続く海底。
- 暖流と寒流がぶつかる海域。

P136、137

- 日本で最も流域面積が広い河川。
- まわりを山地で囲まれた、低くて平らな土地。
- 山地から流れ出す川によって運ばれた土砂が山のふもとにたまってできた扇形の地形。主に果樹園に利用。
- 河口に土砂が三角の形にたまってできた地形。主に水田に利用。
- 川や海沿いの平地よりも一段高くなっている土地。

P138～141

- 地表にあるものの位置、高さ、形などを計測し、規則に従って縮めて表した地図。
- 縮める割合。
- 地図上に表されている記号。
- 地表の同じ高さのところを線で結んだ線。

P142～143

- 本州、九州、四国が属する気候帯。
- 北海道が属する気候帯。
- 季節に応じて風向きが変わる風。夏には太平洋上から暖かく湿った風が、冬にはユーラシア大陸から冷たく乾いた風が吹く。
- 北海道と小笠原諸島を除いて、5月から7月にかけて雨の多い期間。
- 全般的に冷涼で、とくに冬の寒さが厳しい気候。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	

- 24 ふゆ ゆき おお きこう 冬に雪が多い気候。
- 25 ふゆ せいてん おお なつ あめ おお きこう 冬は晴天が多く、夏に雨が多い気候。
- 26 ねん とお こうすいりょう すぐ きこう なつ ふゆ きおんさ おお 1年を通して降水量が少ない気候。夏と冬の気温差が大きい。
- 27 いちねんじゅうおんだん こうすいりょう すぐ きこう 一年中温暖で降水量が少ない気候。
- 28 ねん とお あめ おお ふゆ おんだん きこう 1年を通して雨が多い。冬でも温暖な気候。

PI44～145

- 29 じしん 振動により みず すな おお ふく じめん いちじてき えきたい 地震の振動により水と砂を多く含む地面が一時的に液体のようになる現象。
- 30 じしん によって かいてい ちけい へんけい はっせい さいがい 地震によって海底の地形が変形して発生する災害。
- 31 たいふう ていきあつ えいきょう かいめん たか 台風や低気圧などの影響で海面が高まること。
- 32 ながあめ しゅうちゅうごう えいきょう どしゃ いっき かりゅう なが 長雨や集中豪雨の影響で土砂が一気に下流へ流されること。
- 33 あめ がふらないなどが げんいん ちようきかん みずぶそく じょうたい 雨がふらないなどが原因でおこる長期間の水不足の状態。
- 34 なつ ていおん つつ お のうぎょうひがい 夏に低温が続いて起こる農業被害。

PI46～147

- 35 しぜんさいがいどう ひがい およ ふせ 自然災害等の被害が及ぶのを防ぐこと。
- 36 ひがい をできるだけ すぐ 少なくすること。
- 37 くに けん しちようそん さいがい じ きゅうじょ しえん おこな 国や県、市町村などが災害時に救助や支援を行うこと。
- 38 もんだい 37 にたよるだけでなく、 じぶんじしん かぞく まも 問題37にたよるだけでなく、自分自身や家族を守ること。
- 39 じゅうみん きようりよく たす あ 住民どうしが協力して助け合うこと。
- 40 じしん かわ はんらんなどによる ひがい よそく ちず 地震や川のはんらんなどによる被害を予測した地図。

PI50～151

- 41 ある くに ちいき じんこう そのめんせき わ 国や地域の人口を、その面積で割ったもの。
- 42 のうぎょう こうぎょう ちゅうしん こうぎょう かいはつ どのくに 農業や鉱業が中心で、工業などは開発の途中にある国。
- 43 たてじく ねんれい よこじく かくねんれいそう だんじょ わりあい くに ちいき 縦軸に年齢、横軸に各年齢層の男女の割合をとり、国や地域の人口構成を示したグラフ。
- 44 きゅうげき じんこうぞうか 急激な人口増加。
- 45 はや こうぎょう はったつ ぎじゅつてき けいざいてき すず くに 早くから工業が発達した技術的にも経済的にも進んだ国。

PI52～153

- 46 しゅっしょうりつ さ こ かず へ しょうしか へいきんじゅみょう のび 出生率が下がり、子どもの数が減る少子化と平均寿命がのびて高齢者の数が増える高齢化が進んだ社会。
- 47 じんこう おお とうきょう おおさか なごや ちゅうしん としけん 人口が多い東京・大阪・名古屋を中心とする都市圏。
- 48 とし ぶ じんこう しゅうちゅう 都市部など人口が集中すること。
- 49 のうそん せんかんぶ りとう ろうねんじんこう わりあい ふ ちいきしやかい 農村や山間部、離島など老年人口の割合が増え、地域社会を支える活動が困難になる状態。
- 50 だいとしけんしゅっしんしゃ だいとしけん いがい ちいき うつ す 大都市圏出身者が大都市圏以外の地域に移り住むこと。
- 51 だいとしけん いがい しゅっしんしゃ だいとしけん いじゅう しゅっしんち 大都市圏以外の出身者が大都市圏に移住し、出身地またはその近くにもどること。

24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	

PI54～155

- 52 鉄鉱石や、エネルギー資源として利用される原油や石炭などの
鉱物。
- 53 埋蔵量がひじょうに少ない金属や純粋なものを取り出すのに
難しい金属のこと。
- 54 温室効果ガスの増加によって気温が少しずつ高くなること。
- 55 くり返し利用できる自然の力をエネルギー源とするもの。
水力や風力、太陽光、地熱など。
- 56 とうもろこしやさとうきびなどを原料として生産される燃料。

PI56～157

- 57 ダムの水を利用する発電。
- 58 原油や石炭、天然ガスを燃料とした発電。
- 59 原子力を利用した発電。東北地方太平洋沖地震で発生した津波
などによる福島県での事故をきっかけに利用が見直されている。
- 60 将来の世代のことを考えた社会づくり。

PI58～159

- 61 都市から距離の近い地域で行われる農業。
- 62 出荷時期に合わせて作物の生育を遅らせる栽培方法。
- 63 出荷時期に合わせて作物の生育を早めて出荷時期をずらす栽培
方法。
- 64 国内で消費する食料のうちの国内産でまかなえる割合のこと。
- 65 陸地からはなれた沖合で行う漁業。
- 66 沖合よりさらに遠くはなれた海域で行う漁業。
- 67 領海を除く海岸線から200海里（約370 km）以内の範囲。
- 68 魚介類をいけす、いかだなどで人が育てて増やすこと。
- 69 海底に魚が集まる漁場をつくったり稚魚や稚貝を放流したり
して漁業資源を増やそうとする漁業。

PI60～161

- 70 軽くて製造技術が比較的簡単な製品を生産する工業。
- 71 比較的重い製品を生産する工業。
- 72 生産に高度な技術が必要な産業。
- 73 関東地方から九州地方北部にかけてのびる带状の工業地域。
- 74 自動車やオートバイなどをつくる工業。
- 75 原料や燃料を輸入して製品を輸出する貿易。
- 76 貿易が原因で国内の産業・社会に生じる問題。
- 77 企業の海外進出や価格の安い外国企業からの輸入で、国内の
生産が衰退すること。

52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	

P162～163

- 78 産業の分類で、農業・林業・漁業など。
- 79 鉱工業・建設業などの産業。
- 80 小売業・卸売業などの商業や運輸・郵便業、サービス業など。
- 81 パソコンやインターネットなど、情報や通信に関連する技術を用いた産業。

P164～166

- 82 安くて大量に輸送できるタンカーやコンテナ船を使った輸送。
- 83 電子装置や貴金属、魚介類・生花など軽くて高価なものを航空機をつかって運ぶ輸送。
- 84 航空路が放射状にのびる拠点の空港。
- 85 通信衛星にかわる、高速で大容量の光ファイバーを用いた大陸間の国際通信。
- 86 インターネットを利用できる人とできない人との間でおきる格差。

78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	